

I 実践

1 研究主題「自分や他者の権利を守り、誰に対しても公正・公平に振る舞える生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、日立市の人権教育の研究主題をもとにサブテーマとして①「人権に関する課題を把握し、理解することで健全な人権感覚や人権意識の育成を図る」②「差別や偏見の不合理性を正しく理解し、差別しない、させない人権尊重の精神を育てる」を目標としている。

①については教師と生徒が人権教育の課題は何かということを常に追求しながら学んでいくとするものである。②については生徒たちが世の中で生きていく上で必要な「差別をなくす気持ち」を各教科・領域の全分野において育てていくことである。人権教育を進めていく上でどのような取り組みをしていくとより効果的であるかを研究したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

① 人権教育の課題把握（「茨城県人権推進基本計画」から抜粋）

- | | |
|-------------|------------------|
| ア 子どもに関すること | オ 同和問題に関すること |
| イ 高齢者に関すること | カ ハンセン病・HIV 感染症等 |
| ウ 障害者に関すること | キ インターネットによる人権侵害 |
| エ 外国人に関すること | |

② 一人一人を大切にした授業の展開

③ 道徳教育の充実

④ 思いやりの心を育てる活動

- ・あいさつ運動
- ・生徒会活動（クリーンアップ滑川、体育祭、潮風祭、各種募金活動）
- ・学校便り、学年便りによる家庭への啓発
- ・地域との交流（敬老会。三世代交流のボランティア活動）

2 実践事例

(1) 道徳 単元名「人権について考えよう」（資料 人権作文集、人権メッセージ）

① 単元設定の理由

県では、人権啓発の一環として人権月間を設け、「人権メッセージ」の募集を行っている。人権月間に合わせ全校で人権について考えることは、県全体で人権を見直す活動を知ることにもつながり、人権意識を育てる上で大変意義あることである。そこで、人権についての道徳授業を提案し、人権について見直す機会をもった。

② 資料の生かし方

資料は、相田みつをの「いのち」を活用した。平易な内容の詩であるが、自分の命、他者の命に思いをいたすことを呼びかけ、人権について考える授業であることをとらえさせたい。

③ 考察及び検証

学習活動・内容	活動のようす	テーマに関する考察
1 「人権」とは何かを考える。	○自由や命など、思いついたことを自由に話し合った。	○「人権」についてブレインストーミングすることで、人権のイメージを広げられるように配慮した。
2 人権がないがしろにされ、傷つけられている実態について知る。 ・いじめ ・差別 ・虐待 など	○知っている事実や話題について意見を述べる生徒がいた。	○人権が奪われてしまう事例が、自分たちの身近や社会の中で起きていることを意識できた。
3 「人権メッセージ優秀作品」を読み、人権メッセージのねらいを	○同じ中学生の思いを共感しながら読む。	○人権を守ろうとする取り組みが広く行われていることを知らせること

いをとらえる。	○県全体として人権の啓発に努めていることを知る。	ができた。
4 「人権メッセージ」を書く。	○自分の経験や思いをもとに、人権メッセージをていねいに書く姿が見られた。	○何気ない自分の生活と人権との結びつき、他の人々の人権について考える機会となった。
5 教師の説話を聞く。	○真剣に話を聞くことができた。	○友達や自分の「人権」を守ることの大切さと必要性を伝える内容の話とし、人権を意識する必要性を訴えた。

(2) 滑川地区ふれあい福祉祭りボランティア

1 1月2日(土)に滑川地区ふれあい福祉祭りが行われた。本校からJRC委員会の生徒男女10名がボランティアとして参加した。

活動内容は、男子がゲームコーナーの運営、女子がポップコーン模擬店の手伝いである。男子は、輪投げやダーツなどのゲームを幼児や小学生などに説明しながら、楽しく行わせることができた。女子はポップコーンをつくり、袋詰めにして販売することができた。



またもちつきの協力をし、地域の方に教えていただいてもちつきを行った。ついたもちはお祭りで販売された。

(3) あいさつ運動

本校では、ほぼ毎日あいさつ運動を行っている。毎週水曜日は学級ごとに順番で生徒と保護者及びPTA 役員、月・火・木は生活委員、金曜日は生徒会役員が昇降口に立ち登校してくる生徒へあいさつの呼びかけをしている。



3 成果

人権メッセージを作成する取り組みでは、全校で人権について考える時間を設けることで、学校全体での人権意識の高揚を図ることができた。生徒は、全県で人権を守る取り組みを行っていることを知ることにより、運動の広まりや自分との関わりを意識できた。また、社会の中に存在する、男女差別や人種問題、HIV 感染者の人権など、社会的に弱い立場にある人々の人権を守る大切さに気づいた生徒も多い。

滑川地区ふれあい福祉祭りボランティアでは、生徒が生き生きと活動することにより、地域の方々に大変喜ばれた。地域からの批判が多い本校であるが、地域の方々との結びつきを大切にしていることを発信できた取り組みとなった。参加した生徒たちは、とても楽しく活動し、地域の方々に感謝されたことで、大きな充実感をもつことができた。

あいさつ運動は、生徒たちがあいさつをする習慣の向上に役立っている。少しずつあいさつができる生徒が増えてきた。基本的な生活習慣の確立につながるあいさつ運動を、今後も続けていきたい。

II 今後の課題

- ・生徒一人一人の自己肯定感の育成
- ・教職員の人権意識を高める校内研修